

新分野への参入で、ものづくりの可能性の 拡大と成長に挑戦する



アイスマルトカットによるアクリル加工

きっかけ・課題

当社では製版のほか、お客様からのあらゆるニーズに対応できるよう、レーザー加工機を導入し、既存の設備・技術（ドリルカット）と融合させ、次世代のアクリル加工技術の確立と製品開発、その作業工程の内製化に取り組むことにしました。

しかしドリルカットは、アクリル板の特徴でもある透明性の高さが活かせず、刃物の削り跡が残ることなど品質面において

も限界がありました。さらに特性上、仕上がりよりも大きな材料が必要となるため、小サイズの材料はドリルの摩擦で材料が動いてしまうため端材を有効活用できませんでした。

また切り文字などを外注に依頼すると日数がかかり、短納期ができないという、課題の解消が必要でした。

INTERVIEW



新規マーケットへの早期参入のために技術力向上を図る

株式会社和光プロセス 代表取締役 渡邊智彦

この度の機器の導入で、従来は手切り加工が主であった布製品のカットやアクリル文字製作についても、機械化により効率化と付加価値の高い商品、製品の制作が可能になります。

特にLED導光板に関してはマーケットをみても未熟な面があり、LEDを使用した看板や広告製作物については、市場規模としてもこれからの成長が期待でき、強いにアピールができと思っています。

当社としてはこのマーケットにいち早く参入することで、価格的な優位性を享受することにつながると考えています。

実施内容

機器導入により、大型で複雑なデザインにも対応可能に

これらの課題を解消するために、最大で高さ2000mm×幅3000mmのエリアでの加工が可能なテーブル型レーザー加工機一式を導入しました。

機器の導入により、ドリルカットとレーザーカットのそれぞれの特性を生かしながら、既存の技術よりも複雑でデザイン性の高い技術の確立、製品の開発を行うことが可能になりました。

当初はドリルカットとレーザーカットを別々の部分で組み合わせる方法を取りながら、両方のカットングを融合させたデザイン手法を構築しました。



事業の成果

これまで困難だった加工が可能になり作業の幅が広がる

アクリル加工技術の確立・端材の利用・作業の効率化について、レーザー加工の「※アイスマルトカット」によってアクリル板の透明度を損なうことなくカットングすることができるようになり、またドリルカットでは不可能だった小サイズのパーツを加工することが可能となりました。

効率化においても、今までは厚みのあるアクリルの切り文字は全て外注加工となっており、加工日数もおよそ2日かかっていましたが、その日のうちに製作・発送も可能になりました。

※切断面（彫刻部分）がアクリル板の表面と同等の透明度に仕上げるができる機能。



FUTURE OUTLOOK

既存・新規のお客様に付加価値を付けた商品提案を

今回、機器の導入により既存取引先である広告代理店や印刷会社に対し、当社としてアクリル製品加工という新しい商品提案が可能になり、当社の既存の製作物に新しい種類の商品の製造ができるようになります。アクリル販売業者に対しても、付加価値を付けた商品販売に寄与できる提案、製作ができるようになり、業務の拡大にもつながっていきます。

今後はこの仕組みを利用して様々な大きさ、形の商品を開発してまいります。

